

申請者氏名	平井 あかり
学位（専攻分野）	博士（人間生活科学）
学位記番号	博第 7 号
学位授与の日付	平成 25 年 2 月 20 日
学位授与の要件	大学院学則第 13 条第 1 項
研究科・専攻	生活科学研究科人間生活科学専攻
<p>（学位論文題目）</p> <p>入院高齢患者における栄養状態の経時的推移および activities of daily living, 生命予後に及ぼす影響に 関する検討</p>	
論文調査委員	<p>主査 加藤 昌彦 教授</p> <p>副査 内藤 通孝 教授</p> <p>副査 續 順子 教授</p>

論文内容の要旨

(学位論文の内容の要旨)

近年、わが国では在宅あるいは介護施設入所高齢者の多くに低栄養状態が認められることが報告され、大きな社会問題となってきた。この事実を受け、本論文では、対象を病院に入院中の高齢患者とし、低栄養状態の実態および低栄養が引き起こす臨床問題を明らかにしている。

本論文では、最初に療養病床に入院中の高齢患者（以下、入院高齢患者）の栄養状態を5年間にわたり追跡し、栄養ケア・マネジメント(NCM)に基づいた適切な栄養ケアが行われないと、病院の入院高齢患者といえども低栄養状態に陥ることを明らかにしている。さらに、入院高齢患者の多くに認められる低栄養は、筋肉量が低下し、一方、脂肪量はむしろ増加するタイプであることも明らかにした。

次に、こうした事実に基づき、入院高齢患者の低栄養が、臨床上いかなる問題を引き起こすかを、みずから食事を経口摂取している入院高齢患者と食事をみずからは経口摂取できないために経腸栄養管理下にある入院高齢患者に分け、栄養状態と生命予後および日常生活動作(ADL)の観点から、それぞれ検討している。その結果、食事を経口摂取している入院高齢患者の低栄養状態はADLおよび生命予後の悪化につながることを明らかにし、入院高齢患者の栄養状態を良好に維持する必要性を示した。これまで、欧米人を対象とした研究において、低栄養状態が高齢者の死亡率の上昇に深く関与していることは数多く報告されてきたが、我が国での研究は未だ少なく、とくに入院高齢患者におけるこうした研究では、対象症例数も多くない。本研究は、対象症例数が多いことも特徴の一つであり、信頼性の高い知見といえる。さらに、ADLが低下し、寝たきり状態にある経腸栄養管理下の入院高齢患者においても、栄養状態が生命予後に深く関連していることを明らかにしている。

本研究では、入院高齢患者の栄養状態の経時的推移を明らかにするとともに、栄養状態とADLおよび生命予後との関連を示し、入院高齢患者のADLおよび生命予後を良好に保つには、NCMに基づいた適切な栄養ケアを行うことにより栄養状態を良好に維持することが重要であると結論している。